

## 駄菓子屋模擬店運営による地域貢献への試み

八尋 茂樹\*

幼児教育学科

(2011年11月22日受理)

本報告は、2011年5月14日、15日の2日間に渡って開催された第13回鳴滝祭（大学祭）において企画した駄菓子屋模擬店運営の結果を、地域貢献の視点から捉えたものである。

### はじめに

報告者は、大学祭等の行事を利用して大学構内で駄菓子屋模擬店を運営し、来店する児童の購買行動を観察することによって、その地域の児童の特性についての考察を2007年より行ってきた（八尋他、2008）。この研究活動を継続していく中で、児童は言うまでもなく、大人も毎年のように足を運ぶ、いわゆるリピーターの存在が多いことに気付いた。そこでここでは、新見公立大学・短期大学で開催した駄菓子屋模擬店がどのような内容であったかを報告するとともに、その地域貢献の可能性についての簡単な考察を加えてみたい。

### 1. 駄菓子屋模擬店の出店内容

2011年5月14日、15日、新見公立大学・短期大学では、第13回鳴滝祭（大学祭）が開催された。報告者は市民ボランティア3名及び幼児教育学科所属の学生4名の協力を得て、2号館（学生食堂）の後方、部屋の3分の1のスペースを使用して駄菓子屋模擬店を開いた。来店者は2日間で、児童83名、(うち幼児12名)、大人215名であり、盛況のうちに終了した（図1）。

取り扱った商品は、大きく「駄菓子」、「駄玩具」、「くじ」の3つに分類されるが、具体的には表の通りである。商品

の価格はスーパー等での実売価格を調査し、その価格よりも3分の2から半分に設定し、来店者、特に児童が購入しやすいように配慮した。

模擬店において駄菓子屋の特色を再現するために、事前に岡山県内の駄菓子屋を訪れ、販売されている商品名や、駄菓子屋での商品陳列方法等の調査を行い、今回の模擬店では、例えば、圧縮陳列（狭い空間に多くの商品を敷き詰めるように陳列する方法）を再現したり、窓は全てブラインドを閉めて薄暗い「秘密の場所」のような印象を作り上



図1 駄菓子屋模擬店運営の様子

表 駄菓子屋模擬店で販売した商品

駄菓子	うまい棒、ウメトラ兄弟、きなこ棒、フルーツ糸引き飴、モロッコヨーグル、甘いか太郎、こんぺいとう、ヤッターめん、カレー味せんべい、フラワートップ菓子、ココアシガレット、花串カステラ、すき好き梅こんぶ、にんじんボン菓子、ミルクパン他、全30種
駄玩具	吹き戻し笛、ようかいけむり、紙せっけん、おめん、ビニール玩具、光るスーパーボール、光るリボンカチューシャ、スライム、おはじき、ソフトグライダー、レインボースプリング、ファッションリング、プリティセット（ティアラ、カチューシャ）、変装セット、ミニカー他、全25種
くじ	スーパーボール当て、ONE PIECE（ワンピース）文具当て、ミニゲーム当て、かわいい消しゴム当て、ディズニー時計&文具当て、キーホルダー数字合わせ、水鉄砲数字合わせ、全7種

\*連絡先：八尋茂樹 新見公立短期大学 幼児教育学科 718-8585 新見市西方1263-2



図2 宣伝用に配布したチラシ

げたりするよう努めた。また、実際の駄菓子屋では行われていないが、懐かしさを感じられる昭和30年代から40年代の曲を繰り返し流したり、駄菓子を入れる容器も竹かごを利用したり、さらには、看板や値段表示等はワープロで作成するのではなく全て手書きで行う等、店内に少しでも「昔」の印象が漂うように試みた。行事開催前日までに、クレヨンで描いた広告チラシ(図2)を100枚印刷し、幼児を持つ保護者中心に配布した。

## 2. 来店者の様子

この駄菓子屋模擬店は大学祭のイベントの一部でもあるため、開店時間は大学祭のスケジュールと連動することになった。よって、初日は10時開店から16時閉店、2日目は10時開店から14時閉店の予定を立てた。ところが、客足は常に絶えることがなく、予想していた以上の来店者数であったことから、初日は17時、2日目は16時まで延長して対応した。閉店後、後片付けをしている時にも数名の来店者があり、両日とも成功のうちに終了した。

駄菓子は実際に駄菓子屋で売られている商品の中から、特に現在スーパーでは購入できないもの、また、昔から残っているものを選定して仕入れたため、大人からは「懐かしい」、「子どもの頃によく食べた」、「家にいる息子に買っていく」等の声があがっていた。また、スナックやジャンクフードになれた児童にとっては、見たことのない「新しい菓子」に感じられるのか、店員と一緒に来店した保護者に「これは何?」、「おいしいの?」等と質問する光景も見られた。あるいは、保護者が児童に「これおいしいから食べてみたら?」と、自らの児童期の経験に立ち戻っての親子の会話が見受けられた。駄菓子の当たりくじを持って再来店する児童の生き生きとした姿に、店内は微笑ましく、また、非常に活気づいた。

駄玩具に関しては、テレビゲーム世代の児童にとっては見たことのない玩具から、時代を超えて愛されるおもちゃまで幅広く受け入れられていた。保護者が子どもに玩具の遊び方を説明したり、店員が実演してみせたりすると、児童はアナログな玩具の動きに目を輝かせて見入っていた。

くじのコーナーでは、男児を中心にスーパーボール当て

くじが根強い人気があった。また、現在人気アニメーションのひとつである『ONE PIECE (ワンピース)』の文具当てくじは、男女関係なく児童の間で非常に好評であった。子どもから大人まで幅広く購入されたのはディズニーのくじであった。

今回の運営において、「またやってほしい」、「今度はいつやるのか」、「大学祭以外でもやってほしい」という声が年齢に関係なく非常にたくさん寄せられた。また、初日の来店者が2日目に友人、知人を連れて再来店することも少なく、児童らが長いのぼり坂を走ってきて、駄菓子屋模擬店に直行する姿が何度も見られたという報告もあった。世代を超えた話題が提供できる駄菓子屋模擬店は、子ども同士のみで楽しむ場に留まらず、子どもと親、あるいは親同士の社交場にもなることができたと感じられる。

## 3. 地域貢献の視点からみた、学生及び大学教員による駄菓子屋模擬店運営の意義

児童や保護者との会話の中で多く聞かれたのは、残念ながら新見市には「子どもから大人までワクワクする場所(機会)があまりない」ということであった。アミューズメント施設等がほとんどないため、市外へ遊びに出なければ「ワクワクする場所」にたどりつけない。それは逆の視点からすれば、静かで平和な街を維持するための重要な要素でもあるが、健全な歓楽を、この駄菓子屋模擬店が市民に提供する一助になるとすれば、今後も企画運営する意義があるう。

また、大学を身近な存在として捉えてもらう良い機会にもなると考えられる。例えば、新見公立大学・短期大学構内に開設されている親子交流ひろば「にこたん」は、乳幼児を持つ母親が大学敷地内へ足を運ぶ良いきっかけとなったり、担当する大学教員や学生たちとの触れ合いの中での子育てを実践できたり、単に子育て支援の役割を担っているだけでなく、大学のハード面とソフト面を地域に開放することでも大きく貢献しているといえる。とかく教育機関や福祉施設などは閉鎖的になりがちであり、地域の中にありながら「近くて遠い」存在となることが多いことは良く知られている。例えば、児童養護施設や障がい者支援施設といった社会福祉施設、あるいは大手企業は、その問題から脱却するために、非常に安い値段、時には無料でたこ焼きやカキ氷などを提供する納涼祭や秋祭り等を開催することによって地域から受け入れられ、また、自分たちも地域に溶け込もうと努力している。新見公立大学・短期大学も、有望な人材の輩出をする教育の推進に努めることは言うまでもないが、市民の支えあってこそ存在できる大学として自らを捉えるならば、大学や学生及び教員に対して「近しい存在」と多くの市民から愛され、好意的に受け入れられるような理解を得る必要がある。そのためにも、地元市民を中心に、多くの人たちが大学へ足を運ぶ機会となるような企画を積極的に立てていくことは有益だと考える。

最後に、運営上の大きな課題としての経費抑制の努力について触れておきたい。駄菓子のひとつずつの単価は安いものの、200名前後の来店者を満足させるために準備する駄菓子や駄玩具、くじにかかる総額費用は決して安くはない。また、日持ちのしない駄菓子を避け、次回の行事でも使用できる駄玩具を中心に提供すると「駄菓子屋」のイメージから遠くなってしまい、模擬店の魅力が半減してしまう。そのため、賞味期限の限られた駄菓子が売れ残ることも織り込んでの運営となり、今後はコスト面で何らかの対策を練る必要がある。しかし、地域貢献や地域密着型の大学を目指すという方向性を明確に打ち出し、駄菓子屋模擬店の運営を継続させていくならば、模擬店が一般的に目標とする目の前の金銭的な利潤の追求ではなく、大学の存在価値における長期的な利潤の追求と考える必要があるだろう。その理念を達成するためにも、例えば、駄菓子屋、駄菓子問屋

との連携をとり、経済的に上手な運営方法を学び、また、様々な協力を仰げるような関係作りを視野に入れた活動も必須となってこよう。

今後、来場者が年々増えるよう工夫を繰り返し、市民に広く認知される行事へと定着させ、地元根付いた新見公立大学・短期大学を通じて、全国に新見市の名をより浸透させる活動のひとつへと発展させられるよう努力していきたい。

## 文献

八尋 茂樹, 国広 勝代, 石川 正一, 他: 駄菓子屋模擬店にみる萩市の子どもの特性に関する考察. 山口福祉文化大学研究紀要, 1 (1), 53-59, 2008.